

# 手宮中央小で外国語活動 商大生ボランティア

◎ 2019/11/13 ■ スポーツ・教育, ボランティア, 市政・市議会, 文化・歴史・芸術, 注目記事

ツイート いいね! 0 シェア 3! 0 Pocket 0 LINEで送る

小学生の学習指導要領の改定により、2020(令和2)年度から、小学3年生から外国語学習が導入されることを受け、小樽市教育委員会は、昨年度より英語教育の拡充を見越して、小樽市英語教育推進事業「推進指定校」に、山の手小学校(花園5・上泉哲校長)と手宮中央小学校(末広町・谷本慎司校長)の2校を指定した。

その2校で、英検2級以上の英語力があり教員志望の小樽商科大学4年生の内山颯斗さんと佐藤匠雅さんが、普段触れ合う機会のない小学生と直接対話し、授業補助やゲームを通じて、実践的な教育手法を学び、自らの英語力向上を図り、経験をもとに初等英語教育における課題等を考える外国語活動(単位認定)に参加した。



昨年に続き2年目で、今年度は10月・11月に計6回を実施。11月13日(水)の手宮中央小が最終日となった。



3学年から6学年までの1校時目から4校時目まで行われ、商大生はすべてに参加。2校時目は、4年生34名の児童と、小樽外国語活動巡回指導教員の半澤みさとさんと北陵中学校ALTのトムさん、担任ら5名のチームティーチングで進められた。

同市では、外国語活動の時間を2011(平成23)年度から、3・4年生は週1回の35時間、5・6年生は週2時間の70時間実施している。児童は、日頃から英語に親しみ、挨拶や今の気分などを英語で答えることができ、楽しそうに学んでいる。

ALTの授業では、2名ずつ向い合い、決めたキーワードを使った、消しゴムを取り合うゲームやALTへの質問コーナー、テキストを使ってスペルの音声を聞いて、正しい絵を線で結ぶ問題、教室にいるすべての人が参加したマッチングゲームなど、生徒それぞれが積極的に話しかけ、商大生からのアドバイスもあった。



男子生徒は、「外国人の先生と初めてキーワードゲームをして、発音が日本人とは違い良かった」と感想を述べた。



内山さんは、「小学生の反応は早くて素直。分かったか分からないかのリアクションが分かりやすく、説明し甲斐がある」と話し、佐藤さんは、「小学生の英語は、中高とは違う部分もあり、良い機会となった」と話した。

谷本校長は、「いろいろな方と触れ合う楽しい機会。アクティビティを通じて話し人と関わり、表現できる場となった」と話した。

半澤教諭は、「グループ活動やペアで困っている子どもに、商大生が加わることで人手が充実しありがたい。子どもたちも若い先生に聞きやすく喜びがある」と話した。

12月7日(土)13:00から、小樽商科大学(緑3)で「グローバル社会・AI時代に求められる小・中・高・大の教育」が開かれ、参加した2名は、これまでの外国語活動の体験をまとめ発表する予定。



小樽ジャーナル  
令和元年 11月 13日

## 小樽あんかけ焼そば親衛隊 B-1グランプリ出展

◎ 2019/11/16 ■ イベント・観光, 市政・市議会, 文化・歴史・芸術, 社会・経済

ツイート いいね! 58 シェア 0 Pocket 0 LINEで送る

小樽あんかけ焼そば親衛隊(坂田理隊長)は、11月23日(土)・24日(日)に兵庫県明石市で開催するまちおこしの祭典「2019 B-1グランプリ」に出展することを決めた報告のため、11月13日(木)13:00から、市役所(花園2)2階市長室を訪れた。

4年ぶりの出展に、一致団結してまちおこしに意欲を示している坂田隊長、親衛隊の飯岡浩司さんと中澤義範さんが出席し、迫俊哉市長に同親衛隊のキャップとポロシャツを手渡した。



今回のB-1グランプリは、グランプリin 明石実行委員会と、ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会(愛Bリーグ)が主催。

2015(平成27)年の十和田大会(青森県)から、4年ぶり11回目の全国大会となり、道内のなよろ煮込みジンギスカンと釧路ザンタレ

なんまら盛り揚げ隊、同親衛隊の3団体を含む全国55の市民団体が参加する。

2016(平成28)年には、B-1グランプリスペシャルin東京・臨海副都心にも参加している。

それぞれのご当地グルメと町の魅力をPRし、来場者の割り箸の重さでグランプリを決定するユニークなイベントとして、過去に、2日間で約50万人もの集客があり、巨大イベントに成長。

同親衛隊の最高成績は、2014(平成26)年福島県郡山市開催で、9回目に9位の入賞を果たした。

今回は、同親衛隊ら約30名が現地に赴き、小樽市民のソウルフードと小樽をPR。

オープニングとPRタイム、長蛇の列に並ぶ来場者を楽しませようと、応援団姿の飯岡氏率いる“お酢かけ隊”による、小樽の見所やあんかけ焼そばを紹介する商大応援団風な檄文を読み上げるなどのパフォーマンスを交え、来場者に印象付ける作戦だ。



また、未来創造高校と高等支援学校が共同制作した、“小樽へ来て下さい”の思いを込めたメッセージカードも配布する予定。

同イベントに初参加の迫市長は「小樽のPRをしたい」と話し、坂田隊長は、「来場者に、小樽に行ってみたくてと思わせるきっかけ作りができればと思う。順位がすべてではないけれど、上位に入賞すると注目されるので、パフォーマンスで良い結果を残したい」と、意気込みを述べた。

人

小樽発



元気出る自作エッセー出版

庄司 俊雄さん（80）

「すべての人に元気の風を送る」。10月に自費出版した自作エッセーの文庫本（文芸社、660円）のタイトルだ。16年前に出版した「勇気が出てくる本」の続編。タウン誌「月刊ラブおたる」で1980年の創刊から連載中のエッセーから「元気つ

ける」をテーマに17本選んだ。「小中学生や定年退職者など皆さんが前を向く契機になれば」と話す。

本職は中小企業診断士。80歳を迎えた今もラジオ体操やスクワット100回などの日課を欠かさない。「周囲に元気を出せというなら自分も元気でない。1回きりの人生、全力で生き抜きたい」（谷本雄也）

※庄司俊雄氏は緑丘会小樽支部顧問です。